

平成二十五年(巳年)

新年のごあいさつ



高萩市長
草間 吉夫

自然・歴史・文化 市民力あふれる高萩



新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、平成25年の清々しい新春をお健やかに迎えることと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年9月に環境副大臣が来庁し指定廃棄物の最終処分場候補地として、高萩市が候補地として提示されたことは、本市にとって衝撃的な出来事でありました。新聞等の報道でご存知のとおり、私は断固反対することとし、白紙撤回を強く求め、議会とともに国や県に対して、要望書、意見書等を提出するなど、強力で反対を訴えてまいりました。市民の皆さまにおいても、常設委員会を中心に市民同盟が結成され、反対署名運動が行われました。

今後、市民、議会及び市の三者の市民の力、「市民力」で白紙撤回を勝ち取っていききたいと考えております。震災から1年9カ月が経過した現在、市内の道路、河川、公共施設等の被災箇所479箇所の内470箇所の復旧工事が完了しました。復興は着実に進んでいるものの、現在も工事中である高萩陸橋や下手綱新橋など、市民の皆様にご不便をお掛けしている箇所も残っております。引き続き1日も早い復旧を目指してまいります。また、課題となっていた市民への情報伝達手

段として、防災行政無線の整備が昨年7月に完了しました。4月からはコミュニティFMの開局を目指し、さらなる防災体制の充実を図ってまいります。

観光面においては、風評被害払拭のため、県外でのテレビCMや穂積家を活用したレストランを展開してきたことが功を奏して、海水浴場や花貫溪谷などに多くの皆様にお越しいただきました。震災前の来客数には届かないものの、着実に戻りつつあります。

放射線物質の除染については、学校や幼保保育園においてはほぼ完了しました。その他の子ども関連施設においても、早期の完了を目指して引き続き取り組んでまいります。

なお、福島原発事故後、新たな原子力対策指針が示されました。高萩市の一部が東海原発の30kmのU.P.Z圏内になることから、現在、原子力災害対策を盛り込んだ地域防災計画の見直し作業を進めているところです。

一方で、昨年は明るい話題も多々ございました。県立高萩工業高等学校跡地につきましては、学校法人明秀学園から跡地利活用に関する要請がありました。また、ポースカウト日本連盟が高萩市に活動拠点を設けることとなりました。いずれも交流人口の増加と

賑わいをもたらしてくれるものと期待しております。

平成25年におきましても、総合計画に掲げる「自然・歴史・文化 市民力あふれる高萩」の実現に向けた各種施策を推進してまいります。中でも優先課題は、学校耐震化の継続した推進に加え、新たに本庁舎再建に本格的に取り組むなど、昨年に引き続き防災・減災・復興を確実に進めることとあります。

なお、平成25年は茨城県全体にとって特別な年になります。常陸国風土記編纂の詔が下されてから1300年目という大きな節目を迎えます。ただ、残念なことに、この史実と慶賀を知っている方が、あまりにも少ないという現実です。数年前まで私もその1人でした。1300年という時を刻んできた我が国の歴史に敬意を表することは、とても肝要です。そのため本市では、常陸国風土記や戸沢政盛公をはじめとする高萩の偉人や歴史を顕彰する事業を計画しております。この事業が郷土を愛し誇りに思う心を育むきっかけとなることを期待しています。

結びに、本年が市民皆さまにとって輝かしい飛躍の年となりますことを心から祈念申し上げ、新年のごあいさつとします。

元気たかはぎ大使の皆さんからの 新年メッセージ

元気たかはぎ大使とは、高萩市にゆかりがありさまざまな分野で活躍されている方を通じて、高萩市に関する情報の発信や有益な情報や助言を得て、高萩の魅力を広くPRするため、平成22年に設置しました。これまで、テレビ北海道の大藤晋司さんをお願いしていましたが、今年から新たなお2人に就任していただきました。引き続き、3人の大使の皆さんに市のイメージアップや産業・歴史・文化・観光等の振興を図るため、PR活動を行っていただきます。

^{だいとう しんし}
大藤 晋司さん 【テレビ北海道アナウンサー】



札幌より、高萩市の皆様に、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

北海道で迎える10度目の新しい年に際し、私は今、昨年の経験を踏まえた一つの思いが、胸の奥から湧き上がっています。昨年、プロ野球・ファイターズが、リーグ優勝を果たしました。道内は興奮と感動に包まれ、私はインタビューとして、ビールかけで美酒を全身に浴びる機会にも恵まれました。客観的に見て、戦力は潤沢でなかったチームが、なぜあれほどの成果を挙げたのか。現場で継続して取材する中で印象に残るのは、「常識へ挑戦」する姿勢でした。栗山監督の信念でもあるこの姿勢は、グラウンドで戦う現場のみならず、球団を挙げて貫かれていました。球界の常識を「疑い」、新たな可能性を「探り」、躊躇せず「実行する」。それが、潜んでいた様々な力を掘り起し、更には苦境にあっても前に進む情熱を生み出すことにつながったと思います。「経験から学ぶ」ことは大切な知恵です。「常識」もそこから作られます。しかし、批判や検証もなく常識に安住することは、無意識のうちに「停滞」を選択し、あるいは

の自分たちの力に、蓋をすることになるのではないかと。何より、生きるための活力そのものが、気づかぬうちにそぎ取られてしまうのではないかと。そんな思いに駆られました。

北海道は今、原発稼働停止に伴う節電の最中にあります。日常生活に影響を感じることはありませんが、厳しい寒さとともに生きる北海道において、冬の節電は、改めて、いま私たちが置かれている、常識と生きてきた、暮らしの現実について考えさせられています。

昨秋、故郷・高萩から届いた、指定廃棄物の最終処分地選定の報は、私の心を乱しました。常識が、外から唐突に突き破られた気がしました。暮らしを守り、前を向く活力を得るために、常識という日常に流されず、真摯に向き合う気持ちで、求められていると思います。

皆様のご健勝とご多幸を、心より祈念致します。

^{すずき ますみ}
鈴木 珠美さん 【ベトナム料理研究家】 **新大使**



謹んで新春のお祝いを申し上げます。東日本大震災から1年半以上が過ぎました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。この度、「げんき高萩大使」に委嘱されました鈴木珠美です。このお役目をいただいてから、自分の生まれ育った高萩を見つめ直すことが増えました。子どもの頃、夏になるとよく小浜海岸にお弁当を持って海水浴に行ったこと、花貫溪谷にキャンプに行った時のことを思い出します。そして高戸味噌で作った母のお味噌汁は私にとってふるさとの味。高萩の味と豊かな自然を、たくさんの方々を知っていただけるようにPRさせていただき、故郷に少しでも恩返しできればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

<プロフィール> 後藤学園武蔵野栄養専門学校卒業後、母校で講師を務める。その後食品メーカーやレストランのメニュー開発などに携わり、仕事の合間には世界各地を食歩く。1999年にベトナムへ料理留学。ホーチミンに半年、ハノイに1年半滞在して、現地のシェフや料理研究家に師事。2002年に西麻布にベトナム料理レストラン「Kitchen」を開店。2009年4月、東京都現代美術館に「Cafe Hai (カフェ・ハイ)」

をオープン。テレビ、雑誌、書籍などで、誰にでもおいしくできるレシピを提案し、ベトナム料理の普及に力を注いでいる。著書に「おうちで本格アジアごはん」(角川SSコミュニケーションズ)、「ベトナムおうちごはん」(扶桑社)がある。

^{エイリ}
Eiri (藤枝秀達) さん 【ロックバンド「tokage」ギタリスト】 **新大使**

あけましておめでとうございます。ロックバンド「tokage」のギターを担当しているEiriこと藤枝です。この度、「げんき高萩大使」に就任させて頂く事になりました。微力ではありますが、私の愛する故郷、高萩市の素晴らしい自然や、人の温かさを1人でも多くの方へアピール出来ればと思っております。よろしくお願い致します。

<プロフィール> 1996年、X-JAPANのYoshikiに見出だされロックバンド「Dear」でメジャーデビュー。解散後、テレビ東京系バラエティ番組「ASAYAN」から誕生したユニット「Clover」に参加。その後、「MLK FUDGE」のギタリストとしてメジャーデビュー。現在はロックバンド「tokage」として都内を中心に活動中。その他、多くのメジャーアーティストのレコーディング、ツアーに参加。昨年10月にはニューアルバム『EYE』(LIZARD MUSIC)をリリース。また、ファーストアルバム「Hello」、ミニアルバム「サニー」、LiveDVD「まったくのはじめてなんよ」も好評発売中。



あけましておめでとうございます
私達も故郷高萩を応援しています